

学年	高校 3 年	教科	地理歴史	科目	日本史演習		単位数	7
教科書名		詳説 日本史（山川出版）			副教材名	新詳日本史（浜島書店） 詳説日本史スタンダードテスト 日本史用語集		
コース・クラス		N 進文系						

I. 目標

1. 列島内の人々の歩みを学ぶだけでなく、我が国と諸外国や諸地域との関係を基本的な枠組みの中で理解する。数多くの事象を題材に用いて歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
2. 基礎知識の定着と、変わる入試にあわせ、身につけた知識を活用し多角的な視点で物事を考えられる力を養う。
3. 基礎学力到達度テスト 7 割の得点を目指し、大学入試共通テストや一般受験にも対応していける基礎力を身につけていく。

II. 授業のねらい

1. 通史に対する把握・理解を促し、生徒各自が自分なりの歴史を見る目を養うとともに、諸種の問題演習を実施することで、基礎学力到達度テストで着実に得点できる基礎力・応用力を身につける。
2. 講義型の授業に加え、アクティブラーニング型授業も適宜取り入れることで多角的な理解を図る。また、より深い理解を得るために ICT 教材も積極的に使用して、基礎的項目の確認だけでなくさらなる興味関心を喚起する。

III. 授業の進め方

1. シラバスに沿った授業展開を基本とする。
2. 一定の小単元のまとまりごとに小テストを実施する。
3. 7 単位時間のうち、適宜講義と演習を実施していく。とくに 9 月末の基礎学力到達度テストまでは、同試験の出題範囲の学習に重点を置き、2 年次に学習した内容の演習も行っていく。

IV. 学習上の留意点

1. 大まかな基礎知識で通史の軸をつくってから、細かい知識を追求していくように意識すること。
2. 用語の暗記のみではなく、様々な出来事の因果関係を意識しながら、自分の言葉や図表に置き換えて理解すること。
3. 板書の書き写しだけではなく、授業内の解説から要点を聞き分けてメモを取り理解を深める努力をすること。
4. 主体的に復習に取り組むこと。その際には、時代ごとの特徴を整理しながら学習に取り組み、一度に広範囲の時代の学習に臨むのではなく、適宜小さな区切りを設けて取り組むこと。

V. 定期試験

- 1 学期中間試験 : 織豊政権 ～ 幕政の安定
- 1 学期期末試験 : 経済の発展 ～ 化政文化
- 2 学期期末試験 : 開国と幕末の動乱 ～ 冷戦の終結と日本社会の変容

VI. 評価の方法

各学期の定期試験、小テスト、提出物、課題などの総合評価。

VII. 授業計画

学期	月	単元	試験等	学習目標
一学期	4	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	小テスト	・戦国時代から近世社会への転換について、16世紀のヨーロッパの歴史に触れながら、織豊期の政策の意味について理解する。
	5	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展	中間試験	・幕藩体制の仕組みを把握しながら、徳川家と諸大名との関係について理解を深め、近世封建制度の要点を掴む。 ・武断政治、文治政治それぞれの社会背景を理解し、近世社会が変容する端緒をつかむ。／経済の発展を確認しながら、都市部の多様な発達を理解する／大坂の繁栄を背景とした町人文化と、政治と実学を基盤とした儒学文化を考察し元禄文化の二大支柱を理解する。
	6	5 元禄文化	小テスト	
	7	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	期末試験	・列強の進出への対処や三大改革の時代背景に留意しつつ、幕府衰退の過程を理解する。／宝暦・天明期の文化では、民衆生活に焦点があてられたことの意義を、各種資料から考察する。／幕藩体制が動揺する中で、体制への批判的視点が醸成され、近代を準備した点を理解する。
二学期	9	※特別授業 基礎学力到達度テストの出題範囲にあわせ、演習を実施。	基礎学力到達度テスト	第11章以降は、日本史を軸としながら、諸外国との関わりをテーマとして意識し、「国際社会における日本の歴史」に対する考察、理解を深めていくことを主眼とする。
	10	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	小テスト	・“近代”の言葉が意味するものは何かを意識しながら、新政府による近代化の各種政策を学び、あわせて条約改正交渉を概観し、立憲政体樹立の過程を理解することで、近世から近代へと至る時代の、日本の変化を理解する。また日清戦争・日露戦争に至る原因と結果を理解し、日本の国際的地位の変化および植民地支配の推進を考察する。
	11	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆化	小テスト	・第一次世界大戦に因果する国際関係の変化、その影響のもと展開される民主主義的風潮による社会運動の動向を理解しながら、政党内閣制成立の意義を考察する。 ・経済史に軸をおきながら昭和ら、同時期の軍部の政治的進出、政党内閣の崩壊や国際的孤立にいたる過程について考察する。
	12	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講話 第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	期末試験	・日中戦争から太平洋戦争へいたる過程を概観し、同時に全体主義的な国家体制が進展した要因とその結果を考察する。 ・第16章では、国際情勢との因果をテーマとしながら、戦後の民主化政策と諸改革から主権回復まで考察し、理解を深める。 ・第17章では、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。／経済復興とその後の高度経済成長について、国際社会における日本の立ち位置の変化を概観しながら、経済の国際化と国内の技術革新、社会問題の発生などの諸項目に留意して考察を深める。 ・第18章では、国際情勢との因果の性質の変化に着目しながら、経済・政治ともにこれまで以上に国際社会の影響の下で歴史が展開されることへの考察、理解を深める。

※ シラバスの内容については、進捗状況、理解度、その他の都合により変更することがある。